

# 瀬戸内東部沿岸地域における過疎化の実態と要因

小 山 内 廉

キーワード：瀬戸内東部 豊島 過疎化 公共交通 集落の内部密集度 商店分布

## I はじめに

島嶼の過疎化については篠原（1994）が香川県島嶼における産業振興の課題についての要因を、塩屋（2000）が架橋の有無が与える影響を広島県の沼島・横島を例に明らかにした。本研究では多様な有人島が存在する瀬戸内東部地域を例に、島嶼部と本土沿岸の小集落の存続と衰退に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。

研究対象地域（図1）は瀬戸内東部の島嶼7地域と、香川県の沿岸2地域、そして、瀬戸大橋の建設で本土と連絡された坂出市の3島と、埋め立てにより陸化した同市の2島からなる瀬戸大橋周辺地域を加えた合計10地域を選定した。

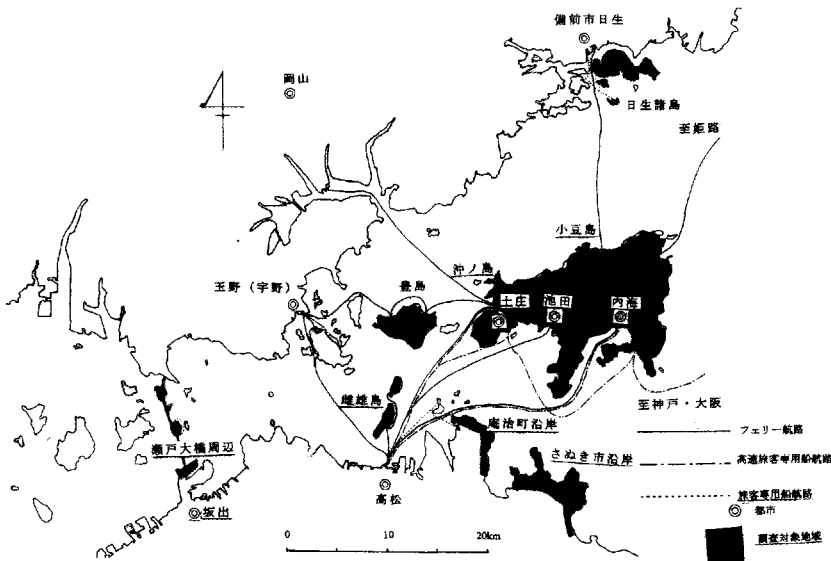
伝統的生活の残る全88集落で15項目を聞き取りと

野外観察で調査し、豊島では詳細な聞き取り調査を2005年3月～12月にそれぞれ行った。

## II 集落の分類とその分析

### 1. 集落の立地と規模

全88集落のうち、標高100m以上には7、沿岸以外には15が立地する。人口500人以上は8のみである。集落規模別に人口減少率をみると、10人以下の集落の平均が38.5%と突出して高く、次いで50人以下の26.5%となった。その他の集落では15%前後である。これは、人口減少に伴い集落機能が低下し、一定規模を下回ると雪崩的に人口がさらに流出する過疎化過程を示唆する。



第1図 調査対象地域：瀬戸内東部・島嶼地域の範囲と概要（2005年）

（2005年3～12月における現地調査及び国土地理院発行50万分の1地方図「中国四国」より作製）



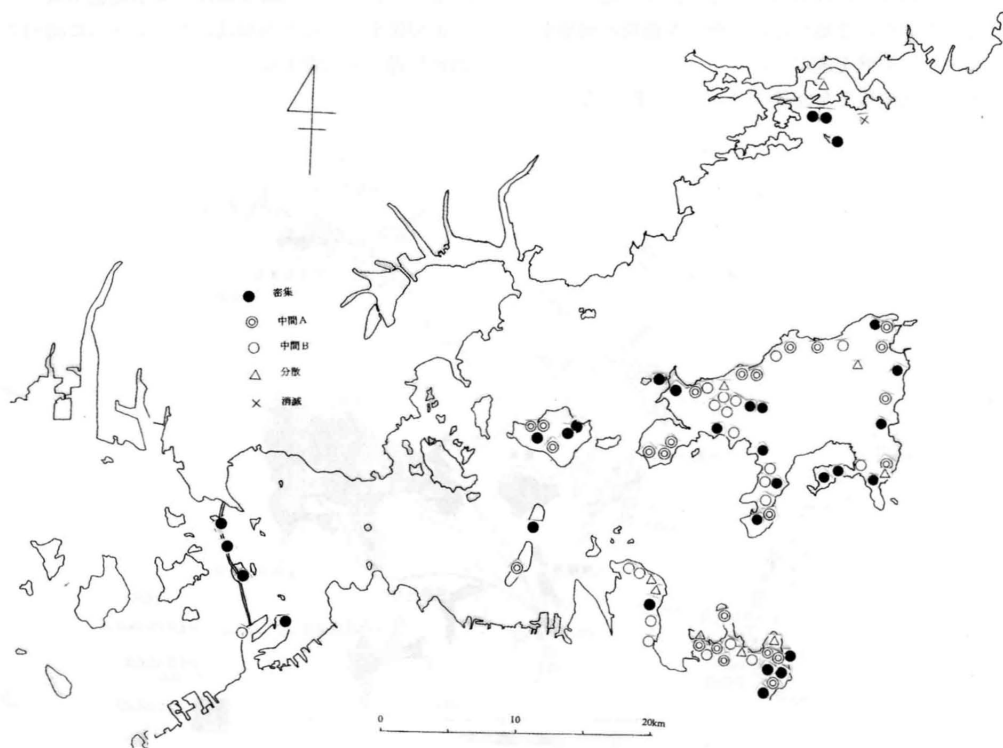
第1図 密集型集落の景観（香川県坂出市与島穴部、2005年12月筆者撮影）

## 2. 集落の内部密集度

集落の内部密集度は、集落内における家屋密度を自家用車の利用という視点から野外観察により4つに分類した。「密集」（写真1）は集落内に自家用車が進入不可能か、一部の道路に辛うじて進入可能な

程度。「中間A」は自家用車は進入可能だが、駐車場の確保は困難な程度。「中間B」は自家用車が問題なく運用可能な程度。「分散」は家々が点在する散居形態を示す。分散型の集落を除き、他の集落は集村形態である。

これらの集落分布（図2）を見ると、密集型は中小の島嶼に集中している。もともと土地が狭隘であること、他地域とを結ぶ道路が建設されないこと、大半が急傾斜地にあり道路整備が進まないことがその理由として考えられる。人口減少率と内部密集度の相関は、密集型と分散型の集落がそれぞれ約19.9%と24.1%で、高い人口減少率を示した。密集型集落は自家用車の集落進入困難なことが日常生活に大きな支障をもたらす。分散型は、生活に重要な社会組織を形成しにくいと推測されること、かつては中間的な密度であったものが、人口流出で分散型に变じ、今なお過疎化が進行していると考えられる。これは現地調査で空地が多かった観察結果を根拠とする。



第2図 瀬戸内東部沿岸、島嶼地域における集落の分布（密集度別）（2005年）  
（2005年3～8月における現地調査及び国土地理院発行50万分の1地方図「中国四国」より作製）

### 3. 商店と公共施設・機関の分布

土産物店を除く商店の分布は、島嶼地域と本土沿岸地域で明らかな差異が見られた。島嶼部と比較し、沿岸地域では商店がある集落が極端に少なかった。聞き取りによると、本土への船賃が高価なため、食料品や日用品は島内で、高価なものは本土で購入して調達するという。船賃という価格障壁が商店の存続に強く関わっている。

瀬戸大橋で本土と連絡された3島では、各集落に商店が存在し島嶼的な特徴を示した。埋立てで陸化した2島では商店が5集落中1集落のみにあり、本土沿岸的な傾向が出た。これは瀬戸大橋が有料橋で価格障壁が発生したためと考えられる。

小・中学校は、統廃合の進行でほとんどの集落から消滅していたが、中小の島嶼では島内から小学校がなくなった事例はなかった。これは、島嶼という特殊な事情から統廃合が進行しないためと考えられるが、中、高校になると一部の島嶼を除き、本土か他の島嶼への通学を余儀なくされる。

上水道は平間集落（内海町）を除く87集落に整備され、下水道は日生諸島の頭島、大多府島の3集落と、さぬき市、庵治町沿岸部の一部を除いて未整備である。上水道は小豆島3町がダムを豊島も湧水等の自主水源を持つが、この2島以外の全島が本土からの海底導水管による送水に頼る。

各市町村役場と小豆島バスによれば、交通に関しては生活航路補助のほか、民間バス会社への路線委託と赤字全額補填、コミュニティバス、福祉バスの運行（国の在宅福祉事業）が実施されており、88集落中、徒歩圏内に集落内外を結ぶ公共交通機関（写

真2）がないのは11のみであった。

### 4. 地域別の人口減少率

地域別人口減少率は、雌雄島（28.8%）と日生諸島（26.7%）が突出して高く、他の島嶼地域は10～20%前後、香川県さぬき市沿岸部（7.89%）が低かった。島嶼地域は本土沿岸地域に比較し、交通条件が著しく不利である結果と思われる。雌雄島と日生諸島での大きな人口減少率は、小島嶼で構成された群島の、行政機関や商店が少ない不便さが過疎化を著しくしたと考えられる。

## Ⅲ 香川県豊島における過疎化とその要因

香川県土庄町豊島は、瀬戸内海東部小豆島の西3.7kmの海上に位置する周囲18kmの有人島である（図3）。豊島全体の人口は、過去10年間で1539から1214人へ減少し、人口減少率は21.1%である。これは対象全集落の平均減少率15.9%、島嶼部諸集落の17.1%よりやや高い。商店と小・中学校の分布は他の中小島嶼とほぼ同様である。

島内は家浦浜、家浦岡、硯、唐櫃浜、唐櫃岡、甲生の主要6集落と、集落機能をほぼ喪失した壇山、柚ヶ浜、神子ヶ浜と、近年消滅した稲塚の合計10集落に区分されている。

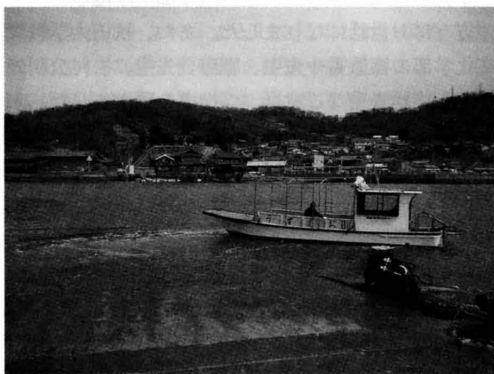
主要6集落には簡易水道が整備済みである。

家浦港のフェリー埠頭には医院が併設され、小豆島在住の医師が通いで医療にあたる。救急医療については、家浦港の海上タクシーが救急船の役目を担い、高速船で宇野港（玉野市）、もしくは土庄港に搬送される。

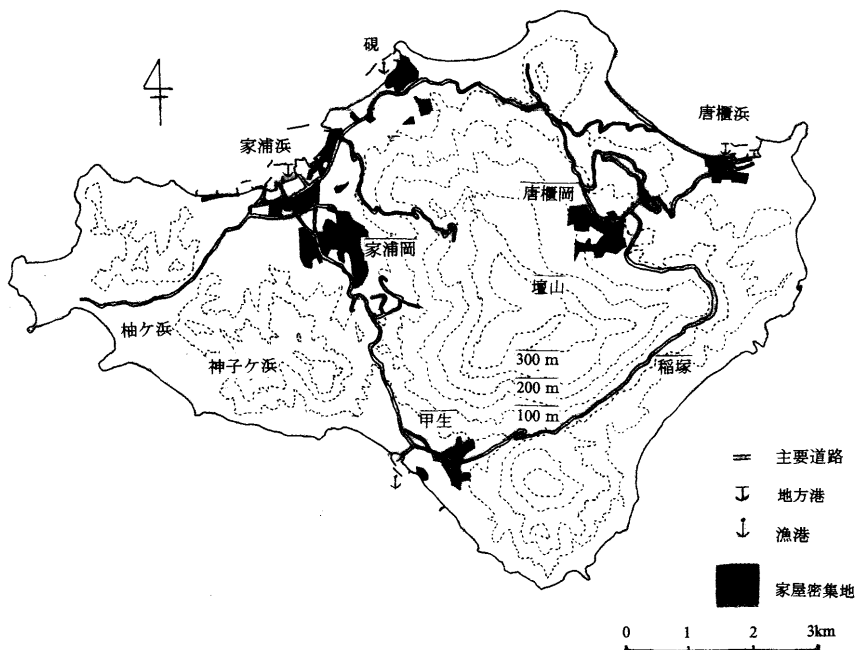
受療、購買行動については、ともに県境を越えた玉野市への流動が大きかった

生活上の不安については、交通機関と、それに関連した医療、特に救急医療に関するものが大きく、島嶼ならではの悩みが目立つ。

祭礼、自治会で行う清掃活動には、ほとんどの世帯が参加する。ただし、濃密な人間関係が負担になるとの声も聞かれた。祭礼は規模の縮小、廃止が相次いでいる。全集落で冠婚葬祭の「組」が統廃合され、柚ヶ浜などの集落の「組」は家浦の「組」に統合された。他にも、存続困難になった神社が廃されたり、若年層の減少により、唐櫃浜、家浦を除いて八幡神社大祭に太鼓を出せず、太鼓巡回経路も短縮



第1図 離島の公共交通機関（香川県小豆郡土庄町の渡船、2005年7月筆者撮影）



第3図 豊島における集落分布 (2005年)

(2005年7～10月における現地調査及び国土地理院発行2万5千分の1 地形図「豊島」より作製)

された。過疎化と高齢化が、自治組織の存続、祭礼など文化遺産の継承に深刻な打撃を与えていることがわかる。

島内で人口が比較的維持されているのは、ノリ養殖などで若年層の就職先が確保されている唐櫃浜と家浦浜である。1982年からの減少率は、両集落が29%なのに対し、他は39～55%だった。

豊島以外の瀬戸大橋周辺地域でも、過去10年間の人口減少率は、同じく漁業により活性化した坂出市櫃石島、岩黒島の4%～17%に対し、衰退した石材業に依存していた与島は38%に達し、中学校が休校に追い込まれた。このことから、主に漁業を組織的に興せた集落、島嶼では、過疎化の進行をある程度食い止めたことがわかる。

#### IV まとめ

瀬戸内東部島嶼、沿岸地域における過疎化は、小規模な島嶼、集落から順に進行し、農地の荒廃、地域社会組織の崩壊、集落の消滅、ついには島嶼の無人化に至るものと推測される。住民の大きな不満の

うち、交通と医療については行政の対応である程度解消できる。巡回医療、公共交通機関の維持は、ほぼ全集落に関して各自自治体が最大限の努力を払っている。今後は地元の産業振興努力と併せ、離島振興のための新たな法案整備等の広域的補助が必要ではないかと考えられる。

本稿の作成にあたり、瀬戸内東部沿岸地域の多くの方々にお世話になりました。また、秋田大学教育文化学部の篠原秀一先生、肥田登先生、松村公明先生から終始貴重なご意見、ご指導を頂きました。末筆ながら、ここに深く御礼申し上げます。

#### 文 献

- 篠原重則 (1994) : 香川県島嶼部の過疎問題と地域振興の課題. 香川大学教育学部研究報告. 第1部, 第90号, 21-51.
- 塩屋祐司 (2000) : わが国島嶼空間の現状と課題—架橋開通に伴う地域変容—. 地理科学, 第55巻, 146-158.